

区分・種別	県指定史跡		
名称	だてむねなり ふじん 伊達宗城及び夫人の墓		
所在地	宇和島市野川		
所有者	伊達宗禮 <sup>むねのり</sup>	管理団体	
指定年月日	昭和44年2月18日		
解説	<p>伊達宗城は、宇和島藩伊達家8代藩主で、幕末四賢侯の一人と称せられ、幕末から明治時代初期に大きな足跡を残した。その墓は等覚寺の境内にあって遺髪を葬り、墓碑には「靖国院殿藍山維域大居士」と刻されている。隣に、同形状の夫人猶子の墓がある。夫人は肥前国佐賀藩主鍋島齊直<sup>なべしまなりなお</sup>の娘で、天保11（1840）年に嫁し、慶応2（1866）年に55歳で病没した。</p> <p>宗城は文政元（1818）年、3000石の旗本、山口直勝の第2子として生まれた。文政12（1829）年、7代藩主宗紀<sup>むねただ</sup>の養子となり宗城と称し、弘化元（1844）年に家督を継いだ。開明的藩主として洋学研究を奨励し、富国強兵の実をあげた。</p> <p>安政年間（1854～1860年）、將軍継嗣問題にあたり一橋派に属し、また安政五か国条約を非難したことから、安政の大獄で<sup>けんせき</sup>譴責を受けて隠居した。以後も島津久光・山内豊信<sup>やまうちとよしげ</sup>らと公武合体策を推進した。維新後、新政府で参議、民部卿、大蔵卿、清国への欽差全権大臣、修史館副総裁などの要職を歴任した。明治25（1892）年、東京で病没、谷中に埋葬された。</p>		

